

新学習指導要領
実施に向けて

地域と学校の協働に向けた関係づくり

平成29年度地域学校協働活動協力中学校区 美咲町立中央中学校区 (加美小学校の事例)

地域と学校の協働により教育活動の一層の充実をめざすためには、両者が子どもを育てる視点を共有し、共に活動を進めようとする関係をつくるのが有効です。年間を通じ、地域と学校が子どもの様子を共有し、活動の充実を図っている美咲町立加美小学校の取組を紹介します。

年間を通して、活動の「ねらい」と「成果・課題」を共有する場を設定

顔合わせ会



独自の学校支援ボランティアハンドブックを活用し、活動全体のねらいや学校支援ボランティアとしての心構え、年間計画等を確認し、活動の方向性を共有する。

- 2 ボランティアの感想
- 3 コーディネーターの感想・意見
- 4 担任から
- 5 来年度への課題、引き継ぎ等

学校支援ボランティア確認表の一部

活動の打ち合わせ・ふりかえり



活動毎に、学習のねらい、子どもの状況等を共有し、職員と学校支援ボランティアの方向性を合わせる。また、活動後には、成果や課題を共有することで、今後の充実に向けたヒントが得られる。

【ポイント】

- ・地域連携担当(教諭・事務副参事の2人体制)と管理職が調整し、いずれかが学校代表として参加する。
- ・学校支援ボランティアや地域コーディネーターの感想・意見等を確認表に記録。授業等で同席できない担任とも共有し、後の活動の参考にすることができる。

活動の成果の発信にも工夫が！

集会時を活用して...



始業式・終業式・朝礼、PTA総会等で、校長から支援の様子を紹介。職員・児童・保護者が支援の様子、学校支援ボランティアの方々への感謝の気持ちを共有することができる。

掲示板を活用して...



地域コーディネーターが活動内容や成果を掲示板にて紹介。学校支援ボランティア、その他の地域の方、保護者等が来校の際、いつでも活動の様子や成果を知ることができる。

感謝の会



児童から感謝を伝える

意見交流会

前半は学校支援ボランティアに感謝を伝えるため、児童が企画する催し、後半は職員と学校支援ボランティアによる意見交流会を実施。地域と学校が共に活動をふりかえり、子どもの育ちについて交流することで、次年度への意欲も高まる。交流の内容は全職員で共有する。

【学校の声】

学校支援ボランティアの方が子どもとの関わりの中で気づいてくださったことを後の指導に生かすことができます。

子どもを育てる視点を常に学校支援ボランティアの方と共有することで、活動内容や子どもへの関わり方等が一層充実しています。